

派遣先所属 福島県 観光交流局県産品振興戦略課

氏 名 古川 陽一 (ふるかわ よういち)、小川 将太 (おがわ しょうた)

派遣期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

震災から5年7ヶ月経過した今もなお、福島県産の食品を買うことをためらう割合が16.6%となっており（風評被害に関する消費者意識の実態調査（H28.10）より）、原発事故による風評が未だに根強く残っています。そのため、派遣先の県産品振興戦略課では主に、福島県産品の魅力や安全性を積極的に発信し、ブランドイメージを回復するとともに、商品の高付加価値化や販路開拓を支援することにより、中小企業等の取引拡大や地場産業の振興を図ることを目的とする業務を行っております。

(1) 古川の担当する業務

私の担当業務は、海外へ輸出を促進するための業務や、海外での風評を払拭するための業務、福島県貿易促進協議会という県内事業者の輸出を支援する協議会の運営事務等になります。

具体的な私の担当国としては、タイ王国を担当しており、タイ向けの販売経路の拡大に関する業務を行っております。実務としては、実際にタイに赴き現地業者との商談、桃をはじめとする県産品の販路を拡大するための交渉、市場調査、業者と県での継続的な取引に向けた調整等を行っています。

タイでは、風評に関する被害は全く無いと言っていいほど少ないため、いかに福島県産品を多くのタイの方々を購入していただけるか、他の都道府県と差別化を図るかといったことを考えながら業務に取り組んでおります。

そのため、現地業者に任せきりでは販路の拡大が難しいため、県産品フェア等を行いタイの政府関係者や現地レストラン関係者等を招き、福島県産品の美味しさ等をPRして県産品の取り扱っていただける業者の開拓や、現地マスコミ向けに広告を出し、県産品の販路拡大のための間接的な支援も行っております。



タイの市場の様子



タイの大使公邸でのレセプションでの様子



タイの現地向け広告



タイの大使公邸でのレセプション準備

担当業務では、現場で被災者の方に直接相対する機会ほとんどなく、目に見えない風評や壊滅的な被害を受けた福島の農業の振興というものと相対することになります。そのためどこまで復旧・復興に寄与しているのか目に見えていないことがあります。自分たちの業務が、マスコミ等の報道を通して最終的な受益者である福島県民の方々の県産品に対する自信やプライドの回復につながるため引き続き努力していきたいと思えます。



輸入業者の桃の扱い方について研修を行う様子



桃の検疫を行う様子

(2) 小川の担当する業務

国内における県産品の販路回復・拡大に関する業務や、復興に係わる展示会やイベントにおける県産品PR業務を担当しています。

具体的には、県外における福島県物産展の開催（札幌、沖縄、東京）、首都圏で行われる大型食品展示会（FOODEX JAPAN 2017）や同じく首都圏で行われる工芸品に係わる展示会（rooms33）における福島県ブースの出展、県内事業者の商品開発や販路開拓に係わる取り組みの支援、県内外で開催される展示会やイベントに出向いて行う県産品の販売やPR等を行っております。



北海道（札幌）での県産品販売・PR



工芸品に係わる展示会の福島県ブース

担当業務で県外の消費者の方とお話をさせていただくと、福島県産品に不安を感じている方が多くいらっしゃることを実感します。また、県内の事業者が震災により失われた販路を回復できずにいる等、福島の県産品は依然として厳しい状況にあります。

一方で、イベントや展示会で福島県ブースを訪れる来場者からは、「福島の県産品を購入できるイベントの開催を心待ちにしている。」等の意見をいただくこともあり、PRの効果を実感できる場面もあります。

福島県産品の復興への道程は長く、県産品の魅力や正確な情報の発信を継続して行う必要があります。私はその最前線で働かせていただく身として、復興に貢献できるよう引き続き努力したいと思います。



展示会での県産酒、県産米PR



九都県市首脳会議における県産品PR

(3) 共通する業務

福島県には60を超える日本酒の蔵元があります。今年の5月に、全国規模で行われる唯一の清酒鑑評会である「全国新酒鑑評会」において、最高賞である『金賞』を福島県の18銘柄の日本酒が受賞し、その受賞数で福島県が日本一に輝きました。また、日本一となるのは今年度で4年連続であり、この快挙は全国2位の記録となります。しかし、福島県は日本酒の産地としての知名度が低いため、この快挙をPRし、「日本一のふくしまの酒」をより多くの方に飲んでいただくための業務を行っております。



4年連続日本一のPR (福島県公式 Facebook)



「日本一のふくしまの酒祭り」(新橋)

具体的には県内外で行われるイベントにおいて、日本酒の特設ブースを設営し、飲み比べや升酒の提供、瓶販売等を行うことにより、「日本一のふくしまの酒」の知名度向上に取り組んでいます。



県内イベントにおける日本酒ブース



福島フェス×日本一のふくしまの酒まつり(六本木)

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

業務ではありませんが、先日、帰還困難区域を通過する国道6号線を車で走りました。通過中は車を降りることができず、左右をバリケードに囲まれ、交差点には警察官が立っているなど、異質な雰囲気だと感じました。町の様子についても、時が止まったように震災による被害をそのまま残している区域もあり、原発事故の影響の大きさを知ることとなりました。福島県の震災による避難者は未だ8万人を超えており、復興は道半ばであると実感しております。

一方で、我々が住んでいる福島市内には目に見える震災の被害はほとんど残っていません。また、福島県の面積は全国3位であり、その分多くの観光名所や特産品があります。桜、紅葉、歴史、温泉、海、湖、スキー場など四季折々の魅力に溢れ、旬の果物や野菜、肉、魚、ラーメン、お菓子、日本酒など地域ごとの食の楽しみがあります。また、毎週のように観光イベントや食に係わるイベントが開催されており、我々も週末には観光名所や温泉、食、を目当てに出かけ、福島県での生活を楽しんでおります。皆様も是非福島県にお越しいただき、その魅力を体験してみてください。



旬の桃



福島名物円盤餃子



相馬野馬追い



会津若松城（鶴ヶ城）